

drbdadm

名前

drbdadm — DRBD の管理ツール

指定方法

```
drbdadm [-d] [-c { file}] [-s { cmd}] [-m { cmd}] { command} [ all | resource]
```

説明

drbdadm は DRBD プログラム群の中で高レベルのツールである。drbdadm は drbdsetup、drbdmeta、IP アドレスについては ifconfig に対する 上位レベルのインタフェースになる。drbdadm は設定ファイルを読み込んで、drbdsetup や drbdmeta を呼び出して必要なコマンドを実行する。

オプション

-d, --dry-run

実行すべき drbdsetup コマンドを標準出力に書き出すが、実際にはコマンドを実行しない。

-c, --config-file *file*

drbdadm が使う設定ファイルを指定する。このパラメータを省略すると、`/etc/drbd-08.conf` が、このファイルが存在しなければ `/etc/drbd.conf` が使われる。

-s, --drbdsetup *file*

drbdsetup コマンドの絶対パスを指定する。このパラメータを省略すると、drbdadm は `/sbin/drbdsetup` を探し、このファイルが見つからなければ `./drbdsetup` を探す。

-m, --drbdmeta *file*

drbdmeta コマンドの絶対パスを指定する。このパラメータを省略すると、drbdadm は `/sbin/drbdmeta` を探し、このファイルが見つからなければ `./drbdmeta` を探す。

コマンド

attach

DRBD リソースに対応する低レベルのローカルブロックデバイスを接続する。

detach

DRBD リソースに接続していたブロックデバイスを切り離す。

connect

リソースに対応するネットワーク設定を有効にする。対応する接続先がすでに設定されていれば、2台の DRBD デバイスは相互に接続される。

disconnect

リソースに対するネットワーク設定を無効にする。デバイスは当然ながらスタンドアロン状態になる。

syncer

デバイスの再同期に関するパラメータを読み込む。

up

attach と connect の両方を実行するショートカット。

down

disconnect と detach の両方を実行するショートカット。

primary

リソースのデバイス状態をプライマリ状態に切り替える。DRBD が管理するデバイスにファイルシステムを作成したりそれをマウントする前に、必ずこのコマンドを実行する必要がある。

secondary

デバイス状態をセカンダリ状態に切り替える。設定ファイル中に `allow-two-primaries` を明示的に書いた場合を除いて、接続された DRBD デバイスパアのどちらか一方しかプライマリ状態になれないため、このコマンドが必要になる場合がある。

invalidate

ローカル低レベルデバイスが非同期になったと DRBD に判断させる。したがって、両デバイスが同期状態になるよう、DRBD はすべてのブロックを他方のノードからコピーする。

invalidate-remote

invalidate コマンドに似ているが、他方のノードの低レベルデバイスが非同期状態になったと見なす。したがってローカルノードのデータが他ノードにコピーされる。

resize

DRBD にディスクサイズ関連の状態を再評価させ、必要ならデバイスのサイズを変更する。たとえば両ノードの低レベルデバイスのパーティションサイズを大きくした場合、両ノードでこのコマンドを実行した後で DRBD は両ノードのサイズを新しいサイズに合わせて調整する。

create-md

メタデータ領域を初期化する。設定した DRBD リソースの利用を開始するときに、オンラインにする前にこのコマンドを実行する必要がある。

get-gi

データ世代識別パート (data generation identifiers) の情報を 簡潔なテキスト情報として表示する。

show-gi

データ世代識別パート (data generation identifiers) の情報を、説明テキストとともにテキスト情報として表示する。

dump-md

メタデータの全内容をテキスト形式でダンプする。ダンプにはビットマップとアクティビティログも含まれる。

adjust

設定ファイルの設定値にしたがってデバイスの設定状態を調整する。実際に実行する前に、あらかじめ **dru-run** モードを実行して、得られた出力を吟味すべきである。

wait-connect

他ノードのデバイスと接続するまで待機する。

state

現在の DRBD の状態を表示する。表示形式は"ローカル/他ノード"である (例: Primary/Secondary)。

cstate

両ノードのデバイスの接続状態を表示する。

dump

設定ファイルを調べて現在の値を標準出力に表示する。設定ファイルの構文上の修正を行うときに有用である。

outdate

メタデータの「時代遅れ」フラグ (outdated flag) をセットする。通常は、他ノードの **outdate-peer** ハンドラによってセットされる。

verify

オンライン状態でディスク整合性を検査する。検査の進行状況は `/proc/drbd` に表示される。非同期ブロックが見つかった場合でも、自動的な再同期は行われない。再同期を実行したい場合は、検査が終わった後にいったん **disconnect** を実行してさらに **connect** する。

pause-sync

ローカルメタデータの一時停止フラグをセットして、進行中の再同期を一時停止する。再開させるには、ローカルと他ノードの両方の一時停止フラグをクリアする必要がある。低レベルデバイスの RAID を再構成している場合などに、一時的に DRBD の再同期を停止できる。

resume-sync

ローカルの一時停止フラグをクリアする。

dstate

低レベルデバイスの同期状況を表示する。表示形式は"ローカル/他ノード"である (例: UpToDate/Inconsistent)。

hidden-commands

マニュアルに記載されていない全部のコマンドを表示する。

バージョン

このドキュメントは DRBD バージョン 8.2.2 向けに書かれている。

著者

Philipp Reisner <philipp.reisner@linbit.com>、 Lars Ellenberg <lars.ellenberg@linbit.com>

バグ報告方法

バグについては、<drbd-user@lists.linbit.com>宛のメールで報告してほしい。

著作権

Copyright 2001-2008 LINBIT Information Technologies, Philipp Reisner, Lars Ellenberg. This is free software; see the source for copying conditions. There is NO warranty; not even for MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

本マニュアルの日本語版の翻訳著作権は、株式会社サードウェアが保有しています。

参照

drbd.conf(5), drbd(8), drbddisk(8) drbdsetup(8) drbdmeta(8) *DRBD* ホームページ (英語) (<http://www.drbd.org/>) *DRBD* ホームページ (日本語) (<http://www.drbd.jp/>)